

—傀儡麻生末期政権の悪あがき＝こじつけ検察の民主党潰し国策捜査—

米国が逆鱗すると永田町に何かが起こる！、かつて自立エネルギー政策奔走の田中がロッキドの罠と国策検察-マスコミでつぶされた。長年の周囲疑獄を見つづけた小沢は**政治資金収支**に関しては嫌疑を一番に恐れ、情報開示と合法性確認では逆に徹底しており、逆に西松建設に罠をしかけたのは彼の方で、原資違法は後に判った事が判る。麻生末期症状政権を見て危機を募らせた既成保守体制は時期革新政権の小沢民主党**政治宣伝的暗殺**に出たのだ。

[1]：現行法視点では公認政治団体であり、授受時点で原資違法性認識がなければ合法。

確かに後に西松建設用意の資金が外為違法の物である事は2008年よりの検察捜査で判明した事で、だが政治献金当時点で「これは違法資金です」と述べて西松が大久保秘書に渡す事はあり得ない事。これも検察も当然承知にある事だが、それを承知で強制捜査の意図はマスコミを通じて「違法資金がともかく時期政権時首相予定の小沢代表に渡っていたと言う事」を大騒ぎして素人世間への汚いイメージ作りに賭けたのだろう。大久保秘書が検察取調べで嘘自白がない限り(密室拷問様尋問だと人は長く持たない時がある、弁護士は事情公開する必要がある)、検察は逆に無実者を有罪者にする誣告罪だ。小沢3/4会見を見ると収支報告開示での確信、違法原資でははめられたの痛恨がかいま見られる。

[2]：なぜこのタイミング!!、麻生政権末期症状と小沢第7艦隊発言!？。

戦後米植民地日本の最も核心に触れるのは米国の軍事諜報占領体制としての日米安保、政権を実質とらない社会党だったのだが、それでも村山最終政権を花道に潰されたのは安保廃棄姿勢だった(村山首相はこれを弱気棚上げしてしまったのだが)。これは米国殖民政策の根幹である。戦後日本の保守本流とは米国意向に従った日本政治であり、その為の**一本パイプ**こそが**長期自民党実質一党独裁政治**、政権が頻繁交代する民主政治の様ではこのパイプが当然壊れる訳だ。野党は、保守の逆政策になるからである。小沢は日米関係は対等でなければならぬと述べるがこれは当然の話、話を超えて本当に政権実現と政策実現する可能性が見られとCIA-政治警察検察が動くのが戦後日本の常である。

駐日番犬CIA任務は「**すべては米国の利益**」である。日本の米軍への基地提供、及び軍資金提供なくば、極東アジアに常ににらみを利かす駐留米軍はやっていけない(**日米安保体制**)

も一つは東大支配官僚危機意識、民主党が地道にやってる事は官僚利権支配への風穴工事、目立たないがじわじわ徹底されると既成利権構造は壊れるのだから社会党背景一つは行政労組、彼等は遣りたがらなかった。政治は予算分捕り合戦であり、国民利益供与を図れば当然誰かが減る。霞ヶ関官僚-警察検察司法は日本既成体制中核の**東大法学部支配**である。通うに**戦後日本税金を食い物にする既成体制**＝{米軍CIA-東大官僚支配}の一体構造打破が国民利益還流への道になる事を知れば、国民は何が正しのかを判明するだろう。

[3] : 選挙目当て!!、アホ麻生窮地がこの無謀検察陰謀を必要とした!

知っての通り、前代未聞の国民に愛想を突かれたマンガ内閣である。だが既成体制にとっては死活問題、このまま放置ができない羽目においやらたのだ。そも戦後日本警察司法体制は体制護持番犬(政治無法国家体制)である事が筆者経験では判明してる。麻生はガサ入れを事前承知で遣らせたのだろう(逆指揮権発動)。国民迷惑無視で未だに地位拘泥なのだ。現状趨勢では選挙での自民敗北は世論調査が示してる現在最大関心事にある。

- (1)元小泉首相は強姦前科二犯の弱みを持つならず者、それだからこそ、米国が熱望した日本サイフ蔵開放=郵政民営化が一時突如浮上して、米CIA演出の彼の風貌言動演技がだましに弱い国民を見事に乗せての成立、然るに時間がたつと熱が冷め、今では反省機運がしきり。彼本性はマスコミでは絶対流布されない。これでマスコミ正体も同時判明。
- (2)石井紘基議員暗殺事件：与太者の議員たかり事件として葬り去られてるが、議会爆弾発言予定があったらしい。裁判では真相究明は闇。<<http://yabusaka.moo.jp/ishii.htm>>.<<http://esashib.hp.infoseek.co.jp/isiikoki11.htm>>.

通うに戦後日本はならず者が優遇、清廉潔癖が暗殺の逆にある。理由は単純で己利益だけに働き、国家国民を省みない野心家ならず者(能力欠如だが矜持だけ高い権力には従順な世襲師弟が大問題)こそがCIA操り人形に適合する体制だからである。因みに日本最大の物理学者(宇宙全部の力の統一論発見者)、内山龍雄博士はノベル賞もなければ、世間周知にもない。腐敗した植民地奴隷頭支配国家では逆になる。

そもそも人をだますは嘘=真実の逆になるのが諜報世界の際立った特徴。一般人には常識を逆転されると、その嘘を見破るのは極めて難しい。CIAはだまし技術の天才集団。それは日本国内に限らず、米本国でも当然節がある。

[4] : 政権交代時代では何でも起きるが、その克服なくて日本解放なし!!

- (1)米オバマ政権の民主共和共存路線は米極右(軍産CIA複合)融和対策：ソ連との軍縮とCIA解体を策したケネデイは己行政=CIA軍産複合体陰謀で暗殺されてる。即ち米国は表の自家政権と裏のCIA軍産複合体の二つの顔政府がある事だ。後者はアイゼンハワの大統領退任演説でファシズム浸透脅威として糾弾されて著名になった。戦後日本背景で蠢くは右翼CIA軍産複合体で自民党と一本パイプにある。オバマ政権外という事になる。だが日本でのCIA問題では同政権と厳しく対峙が当然必須。
- (2)国民が今回事件真相を理解すると民主党政権交代可能性が一層高い。だがそれでめでたしには到底ならない。保守右翼反撃は当然ある、何でも起こると思った方が良い。米国では見事に全米初の黒人大統領誕生だが、実は裏では根深い反動右翼台頭を警戒する情報も多発。経済雲息が今後悪化するのでこの対立はより先鋭化すると見られる。
- (3)同事情は日本でも当然起こる。理屈での政治で負けてるのだから、彼らは(個人)攻撃に訴える。今回小沢攻撃も典型例。騙されない、脅されないの振れ込めサギ注意です